

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	高 知 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	安芸市立井ノ口小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	12	22	20	20	21	23	1		

研究の概要

1. 研究主題

分かる喜びを味わい、自ら学ぶ子どもの育成 ～ 分かる体感できる授業をめざして ～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数 基礎基本となる内容が特に低学年からの積み上げのうえに成り立っている教科であるため。また、数学的な考え方、論理的な思考力を培う場とするため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 分かる授業の創造</p> <p>研究の見通し 基礎学力の定着を図るために、知識理解を深める授業内容を研究することや計算等の繰り返し学習をすることでさらに理解力も深まるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・到達度把握検査の課題を明確にするとともに個に応じた指導方法の研究 ・意欲的な学習につながる教材研究及び教材、教具の開発 ・計算力の習熟と向上につながる教材の研究 ・授業改善につながる指導方法や指導体制の研究</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 分かる喜びを味わい、自ら学ぶ子どもの育成</p> <p>研究の見通し 児童に分かる体感できる授業作りの研究をすることや既習内容を繰り返し学習することで理解力が深まり、基礎学力の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・教材研究の充実 ・意欲的に取り組ませる教材・教具の開発 ・基礎学力の定着、個に応じた支援のできる指導方法の研究 ・算数環境づくり ・開かれた学級と教員の協力体制づくり</p>
--------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 分かる喜びを味わい，自ら学ぶ子どもの育成</p> <p>研究の見通し 基礎基本となる内容を身につけたうえで，児童個々の課題に対して解決する場を設ければ，自ら学ぶ児童の育成につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・児童の主体的な学びが展開できる場づくりの研究 ・意欲的に取り組ませる教材・教具の開発 ・基礎学力の定着，個に応じた支援のできる指導方法の研究 ・数学的な考え方のできる自己表現力の育成 ・算数環境づくり</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制

校内研究組織 企画委員会 _____ 学習部会 _____ 職員会 (校長・教頭・教務主任 _____ (教頭・研究主任・教務主任・低中高学年代表) 研究主任)

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>児童に興味関心を抱かせ意欲的に取り組ませるために，タイル等の具体物やゲームを取り入れた授業を実施したことで，単元最後の振り返りカードをみても“よくわかった”という児童が23人中22名と回答している。 このように体験的な授業づくりに努めることができた。</p> <p>例 6年「単位あたり量」児童の感想から コーン運びも楽しかったです。今年の算数はゲームなどがあってとても楽しいです。こんな算数なら楽しく勉強できて，頭に入りやすいと思います。(追いかけて算のことをもう少し教えてください。)</p> <p>少人数指導や習熟度別学習，TTの指導形態を単元に応じて実施したことで，じっくりコースへ参加した児童からは，「自分の考えが発表しやすいし，質問もしやすい。」「もっと分れて勉強したい。」との意見が聞かれ，学習に対してあまり興味を持たなかった児童が意欲的に授業に取り組めるようになってきた。</p> <p>補充的な学習時間(きつつきタイム)では，当初は四則計算が中心であったが，繰り返し学習させるために文章題，面積，角度等まで問題を広げた。また，このきつつきタイムの時間には，保護者の協力を得て実施することができ，より多くの児童に支援ができるようになった。</p> <p>授業評価表(ふりかえりカード)も評価項目は固定化せず，教員のねらいとする項目に変更し，指導と評価の一体化が一步進んだ。また，その時間の指導内容の理解度を把握しやすくするために5段階にしたことや，自由記述欄の充実に努めたことで，児童のさまざまな思いや考えを把握することができた。 また，卒業時まで継続使用できる個人カルテも作成することができた。</p> <p>他の学年の授業の様子を誰にでもわかるように画像で掲示したり，重要な公式，用語や算数日記等も掲示し，視覚的にも関心を抱かせるように算数環境作りにも努めた。</p>

2. 今後の課題

日頃より児童は自分の考えを表現することが苦手である。算数科においても自己表現力を育成するとともに数学的な考え方を伸ばす必要がある。更に、授業の展開においても児童相互の関わりを持たせ、友だちの良いところを認め、学級全体を高めるような場を支援者が意識して設定していくことが大切である。

低学年においても少人数指導を積極的に取り入れ、基礎基本の確実な定着を図る。また、どの学年においても少人数指導が実施できるように、教室確保や学習環境も充実させる必要がある。

研究主題達成のために教員の協力体制はできたが、研究主任を中心とした核（低・高2名位）となる教員の育成が望まれる。一部の教員の負担にならないためにも、また全教員の研究にするためにも校務の分担を図る必要がある。

表現力の育成を図るためにも国語科の読み（音読・朗読）にも力を入れる必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

CRT 検査 4月下旬実施 教科（国語・算数）2学年～6学年
観点別の到達度把握をする目的で実施する。

個人カルテへの記述（算数科）
各学年で到達させたい学習内容項目の確認を図り、その項目について個々の到達度を記述する。

NRT 検査 2月中旬実施予定 教科（算数）1学年～6学年
既習内容の定着度及び課題把握のために実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究成果の普及

公開授業予定 平成16年11月16日（火） 13：00開会
井ノ口小学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無